

大学入試における英語外部試験の活用とその対策

数研出版 英語編集部

0. はじめに

英語の外部試験については、すでに研究をしたり、対策を行ったりしている先生方もいらっしゃるかと思いますが、大学入試での活用状況や活用方法について、今一度情報を整理してみたいと思います。

1. 大学入試における英語外部試験の活用状況

旺文社教育情報センターによると、平成 29 年度の大学入試における外部試験の利用率は、AO・推薦入試では 41%、一般入試では 14% となっています。割合だけ見るとそこまで多いとは感じないかもしれませんが、実際の大学数を見てみると、AO・推薦入試では 314 大学、一般入試では 110 大学が利用していることになります。昨年度と比較すると、AO・推薦入試では 5 ポイント増、一般入試では 7.3 ポイント増と、いずれにおいても増えています。現時点では入試に外部試験を活用していない大学でも、今後活用する可能性は大いにあります。例えば、筑波大学、国際基督教大学、聖心女子大学では平成 30 年度入試から外部試験を導入することが決まっています。

また、文部科学省の発表によれば、平成 32 年度から始まる大学入学希望者学力評価テスト(仮)において、「民間試験を活用した英語 4 技能評価の方法」が検討されています。「読む」・「聞く」・「話す」・「書く」の 4 技能のうち「話す」と「書く」については民間試験に委ねることになりそうです。最終的な決定は平成 29 年度の初頭に発表が予定されていますが、その結果次第では、今後ますます外部試験が熱を帯びてきそうです。

2. 大学入試における英語外部試験の活用方法

大学入試における外部試験の活用方法は、主に分かたの 4 つに大別されます。

- ① 得点換算
- ② 出願資格・出願要件
- ③ 加算
- ④ 優遇・参考

それぞれについて、見ていきましょう。

① 得点換算

例：TOEFL iBT 42-71 点は、本学試験科目「英語」の得点を 80 点、72 点以上は 100 点に換算する。

TOEIC・TOEIC S&W 合計 1095 点以上 (L&R 785 点以上、S&W 310 点以上)で、大学入試センター試験「外国語」の得点を満点とする。

外部試験の最も多い活用方法です。各大学が設ける基準に従って、外部試験のスコアを一般入試の「英語」または大学入試センター試験の「外国語」の得点に換算できるというものです。大学によっては、通常の一般入試と外部試験を利用した一般入試を併願できるところもあり、受験者にとっては合格のチャンスが広がるというメリットがあります。

② 出願資格・出願要件

例：英検 2 級以上を出願資格とする。

TEAP 4 技能型 230 点以上を出願要件とする。

各大学が定める外部試験のスコアを持っていて初めて出願できるというものです。大学が実施する英語の試験は受験せず、他科目の点数で合否が判定されます。「試験免除」という呼び方をしている大学もあります。この場合、受験者は出願資格さえ満たしてしまえば、英語以外の科目に絞って学習に取り組むというメリットがある一方、英語が得意な受験者にとっては、英語の得点では他の受験者との差がつかなくなるという側面もあります。

国公立大学では AO・推薦入試で活用されることが多く、私立大学では一般入試でも活用されています。ただし、東京海洋大学(海洋科学部)のように、国公立大学でも一般入試で活用している大学があるので、しっかりと情報収集を行うことが必要になってきます。

③加点

例：GTEC CBT 1400 点以上で 30 点加点，1250 点以上で 16 点加点する。

各大学が設ける基準点によって、一般入試あるいは大学入試センター試験の得点に加点できるというものです。加点される点数は大学によって異なりますが、中には 30 点以上加点されるケースもあるので、使い方によってはかなり有利となります。

④優遇・参考

例：英検 2 級以上で合否の際の参考にする。

各大学が定める基準を満たした外部試験のスコアを持っていると、合否判定の際に優遇されることがあるというものです。

なお、現時点で入試で活用されている主な外部試験としては、実用英語技能検定(英検)、TOEFL iBT、TOEIC / TOEIC S&W、Cambridge English、IELTS、GTEC CBT、GTEC for STUDENTS、TEAP、TEAP CBT などがあります。多くの試験で CBT(Computer Based Testing)が導入されており、英語力だけでなく、コンピュータを使う技術・能力も必要になってきます。

ここまで、大学入試における外部試験の活用方法を見てきましたが、高校ではどのような対策を行っているのでしょうか。その点について触れてみたいと思います。

3. 高校での外部試験対策の現状

外部試験の対策として、長期休暇中に講座を開いたりする学校もあるのではないのでしょうか。

弊社編集部で調査・確認したところ、TEAP 対策や IELTS 対策の講座を夏休みに 1 週間程度実施している学校がありました。また、大学の附属高校では、進学する際に外部試験が課されることがあるため、休暇中や授業の一部において外部試験対策を行っているという話も聞きました。このような学校では、多くの場合、各外部試験の公式問題集を教材として使用しているようです。しかし、公式問題集は当然のことながら実際の試験を想定したものになっているため、授業で扱おうとすると、時間や採点の面などで難しさが出てしまうこともあることでし

よう。また、生徒にとって必要な外部試験が決まっている場合には公式問題集は有効ですが、外部試験がどのようなものなのか知らない生徒や、まだ志望校が決まっていないので複数の外部試験について概要が知りたいと思う生徒にとっては、ある特定の試験の対策本を購入するのは負担が大きいのと思われます。そのため、学校採用本で外部試験の対策が行える教材を要望される先生方もいらっしゃいます。

4. 4 技能型テスト対策本の発行について

このような学校現状を踏まえ、今回数研出版では学校採用本として、外部試験の対策ができる問題集を発行することになりました。9 月上旬ころには「ご審査用見本」をお届けできるように鋭意編集作業を進めていますので、ご興味があれば是非一度内容をご覧くださいと思います。

最後に、すでに学校で外部試験対策に向けた取り組みを行っている先生方の中で、実践方法などをご紹介いただける先生がいれば、是非本誌への寄稿をお願いしたいと思います。

※本稿は平成 29 年 2 月末時点の情報を元に作成。

(参考資料)

- ・旺文社教育情報センター 入試情報 平成 28(2016)年度
【推薦・AO 編】英語外部検定利用大学が大幅に増加！
【一般入試編】英語外部検定 入試利用大学が倍増！
http://eic.obunsha.co.jp/exam_info/
- ・旺文社大学受験パスナビ「注目の入試トレンド 英語の資格が使える入試」
<https://passnavi.evidus.com/gaibukentei/>
- ・英語 4 技能試験情報サイト「入学者選抜における活用」
http://4skills.jp/selection/case_admission.html
- ・文部科学省「高大接続改革の進捗状況」
http://www.mext.go.jp/b_menu/houdou/28/08/1376777.htm
- ・独立行政法人大学入試センター「大学入試センターにおける新テスト(「大学入学希望者学力評価テスト(仮称)」)の検討・準備体制について」
http://www.dnc.ac.jp/corporation/daigakunyugaku_kibousyagakuryokuhyoka_test/kentoujyunbitaiseini.html

(数研出版株式会社 英語編集部)